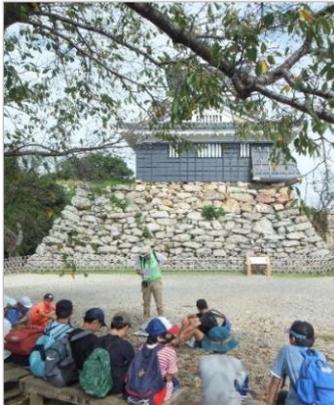


浜松観光ボランティアガイドの会

浜松市内の小学生と巡る浜松城公園とその周辺

浜松市立城北小学校 同行ガイド

10月8日(火)、6年生74名を対象に「浜松城公園と元城町東照宮、奥山線跡地(亀山トンネル)」の同行ガイドを行いました。事業部の中村部長の挨拶の後、4グループに分れて、午前中は浜松城の天守を中心に公園を散策し、芝生広場で昼食をとり、元城町東照宮と奥山線亀山トンネルを見学しました。



天守曲輪でメモを取る子供たち
教えてくれました。日本庭園では動物園があったことを説明したら、驚いていました。象舎があった石舞台を通って芝生広場へ。

浜松城公園の散策では、天守は徳川家康ではなく堀尾吉晴が造ったこと、石垣は浜名湖にあった石を運んできたことなどを説明。子供たちはノートを取りながら熱心に話を聞いていました。西端城曲輪にあるプラタナスの木の前では、「4年生のときに勉強したよ」と

この場所は昔プールがあったことを当写真で見せたとき、広場にある階段を見つけて、「これはプールがあったときの観客席ですか」との質問あり、観察力の鋭さに感心しました。

元城町東照宮は家康が浜松に来る前にこの地を治めていた飯尾氏のお城があったところで、徳川家康と豊臣秀吉の二人



元城町東照宮で説明を聞く子供たち
の武将を天下人に導いた場所に建てられたので、出世神社と呼ばれていることを説明しました。

奥山線の電車を歩いて亀山トンネルへ。トンネルの入口に掲示してある写真を見ながら、60年前に廃止されるまで、高校生の通学や貨物の輸送に使用されたこと、煙突の形から「らっきょう軽便」と呼ばれて親しまれていたことを伝えると、興味深く聞いていました。

事業部 長松谷晃徳 (東ブロック)

浜松市立広沢小学校 同行ガイド

10月16日(水)曇り空の下、3年生「ふるさと講座同行ガイド」が行われました。



紙芝居の説明を聞く子供たち
実際にメジャーで軌間を測

軽便鉄道奥山線について学んだクラスは日枝神社から出発。モニュメント・広沢トンネル(跨線橋)・広沢駅・亀山トンネルを4グループに分かれて見学しました。皆、熱心にメモしながら説明を聞き、個々のタブレットで写真を撮っていました。

モニュメントでは、実際にメジャーで軌間を測

学の後、日枝神社に戻り、当時の様子を紙芝居形式で説明。動物園の孔雀が軽便を止めてしまったこと、坂道でお客が車両を押したことなど現代の子供には想像もつかないようでした。

最後の質問コーナーでは「乗り降りの多かった駅は?」「一日の運行数は?」「すれ違いはどうしてた?」など、生徒さんだけでなく保護者からも手が挙がりました。15円の切符が残っていた話から、スタッフが子供の頃は5円でお菓子、15円でパンが買えたことを伝えるとお金の価値の違いに驚いていました。校区内の歴史に興味を持って楽しんでもらえたようです。

今度、遊歩道を通った時には軽便のことを思い出してくれそうな気がします。

事業部 古橋順子 (北ブロック)

北ブロックミニ研修 〈中日新聞を制作・印刷する工場見学〉

9月30日(月)北ブロックのメンバー13人で、中日新聞社からの委託を受け、遠州地方で唯一の新聞を制作・印刷する中日オフセット印刷株式会社の浜松都田工場を見学しました。



説明を受けている様子

見学をさせていただきました。新聞についての知識が高まる見学コースでした。

最近では、インターネットやスマホの普及で、新聞が読まれなくなり、全国総発行部数は1997年に5,400万部を記録、2022年には3,000万部にまで落ち込み、44%もの減少になっています。

新聞の持続可能を考える良い機会にもなり、大切にしていきたいと思いました。

工場見学は、完全予約制ですが平日12時30分～14時までの1時間30分のコースが可能ですので、都合のつく方はぜひ見学してみることをお勧め

現地では新聞ができるまでの工程をパネルや、動画で説明を受け、実際に印刷しているところも



都田工場にて記念撮影

めします。

工場見学の後、車で数分のところにある国道362号線沿いの小さな平八稲荷を散策し、さ



平八稲荷と都鳥吉兵衛住居跡

らに550m離れたところにある都鳥吉兵衛住居跡へ移動しました。森の石松の最後と関わった都鳥一家と石松の死についての説明を聞き、少し前の時代に思いを馳せながら解散しました。

北ブロック 原田隆史

南ブロックミニ研修 〈楽器博物館～杉浦国頭の墓を巡る〉



チェンバロに興味津々

お話を聞きました。なかなか聞けないチェンバロの音を聞いた上で、その音を出す仕組みや、ピアノとの違いなど説明を受けました。皆興味津々でチェンバロをいろいろな角度から見っていました。その後はそれぞれで見学。

皆さん早々に見終わってしまい、12時15分から楽器博物館のカフェでおしゃれランチ。

21人中カレーを注文した人がほとんどで、パニーニを選んだのは4人だけ。



壁の向こうはパニーニ組

全然秋らしくならない9月30日(月)、10時45分に浜松市楽器博物館ロビーに集合し、入館。すぐに11時からのギャラリートークに参加。チェンバロについて

配膳しやすいためか、パーティーで席が分けられており、パニーニ組は少し疎外感を味わいました。

13時前には楽器博物館を出発し、愛染稲荷 茶枳尼天(だきにてん)、夢告(ゆめつげ)地藏尊、鳥居松と見返りの松、木戸跡を見て馬込橋を渡り、掛塚街道と笠井街道の起点を確認しました。

それから、木戸雨水ポンプ場で丸百市場跡の傾いた案内を見て、刑場跡にさまざまな想像を巡らせました。

さらに南下し、諏訪神社奥宮で三葉の松の葉を拾い、最後は草に埋もれた杉浦国頭(くにあきら)の墓を確認して駅方面に戻りつつ解散しました。



草に埋もれて近寄れないお墓

何度も研修しているコースですが、研修の度に新しい発見があります。実はランチ後帰ると思って着物で参加してしまい、天気予報より天候に恵まれ(すごく暑くて)、大変でしたが充実した研修となりました。

広報部 松沼素子(南ブロック)

西ブロックミニ研修 〈歴史を彩った偉人たちの眠る地を巡る〉

9月24日(火)ブロック会終了後、浜松城公園芝生広場に集合し、おにぎり昼食会でお腹を満たした後、西ブロック18名、他ブロック8名計26名の参加者で出発しました。

最初は浜名湖七福神のひとつ遠州信貴山。由来や時代の流れの説明を聞きマニ車を回したり、大師堂では大見会長の誦経のもと四国八十八ヶ所巡りのお砂踏み体験をしました。隣の常楽寺で三方ヶ原の戦いの阿弥陀橋伝説、参道の松並木「一名富士寺」の話では、昔の様子が目に浮かびます。

ここは西ブロック長の故郷、子供の頃には、まだ防空壕や爆弾が落ちた跡が残っていたそうです。

次に本丸跡から現在地に移った齡松寺や中沢墓園の梅谷本陣家の墓石を訪れました。白山神社では、桜の古木の中から竹が生えている「子持ち桜」や社殿北側の御神木スダシイの佇まいの荘厳さに胸を打たれました。

参拝の後、百段坂の階段の数を数えながら下った所にある少林寺では鈴木修氏寄進のフェニックスを見学。墓地には、ちょうどお彼岸なのできれいな花が供えられていました。

次の目的地、教興寺へ向かうため、急勾配で有名な通称地獄坂(浄護坂)を車のアクセルをいっぱ



白山神社にて

いに踏み込んで登りました。

教興寺は、浜松では珍しい時宗の寺で、寺紋の話や青山氏時代の無実の罪で処刑された稲津家奉公人の説明を受けていると、丁度住職の奥様がお見えになりお寺のお話をしてくださいました。教興寺からの眺望は必見です。お隣の玄忠寺の墓地では、棒屋中村家の墓石や、山葉寅楠と向かい合わせの福島豊策の墓石を見ながら二人の絆の話に耳を傾けました。

その後、旧NHK浜松支局跡新川、犀ヶ崖合流地点、最終見学地の池川神社を巡りました。

実に充実した時間を過ごす事ができ、浜松偉人探訪が今後の楽しみとなりました。

西ブロック 磯部美保子

東ブロックミニ研修 〈浜松宿の本陣跡を巡る〉

10月20日(日)9時30分、家康公鎧掛松付近に集合し、他ブロックからの参加者5名を迎え総勢18名で、東ブロックミニ研修 浜松宿の本陣跡巡りが開催されました。

江戸時代末期の浜松宿には、本陣が六軒あったという記録が残っているそうですが、その遺構の多くは、残念ながら戦災で失われました。しかし、浜松市街地の町割りには、宿場町であり、城下町であった浜松の名残があるそうです。

それでは、計画されたルートに沿って跡地にある説明看板を目印に、散策スタート。

まず連尺交差点付近に行き、大手門跡の説明看板



浜松城大手門跡の説明看板

の話を聞きました。すると「浜松城大手門の間口8間とあるが、意外と小さいねえ」「いやいや掛川城大手門は間口7間だったので決して小さくはないと思うが」などとさっそく盛り上がってきました。

次の谷島屋とその側にある高札場跡の説明看板

の所でもいろいろと話しを聞き、横断歩道を東に渡り佐藤本陣跡の説明看板の所へと進みました。

ここでも話を聞いた後、すぐ隣の江間殿小路跡の木杭がある所へ行きました。

そういえば昨年浜松城でボランティアガイドをしていた時に、江間氏の子孫だと言う方が見えて、少し話をして行かれたことを思い出しました。

ふと視線を連尺通りの向こうにやると、少し坂を見上げるかたちで、五社前通りと鳥居・神社が美しく見えました。

これまで何度も五社前通りを歩いていましたが、美しさに全く気が付きませんでした。

なるほど、これが宿場町の名残りをとどめる町割りの一つかと、実感した自分に満足をしました。

さらに、残りの本陣跡と巖邑堂跡～番所跡～法林寺を巡り、有意義なミニ研修を終了しました。

広報部 伊藤英典(東ブロック)



佐藤本陣跡で話を聞いている様子



江間殿小路跡から見る五社神社

会員の交流広場

絶景と美味、4泊5日東北一周の旅

昨年10月の信州新蕎麦食べ歩きを皮切りに、8回の旅に出ました。その中で印象に残った今年7月の東北一周の旅について書かせていただきます。

一日目は東北新幹線で仙台駅下車、まず腹ごしらえをしようと焼肉屋でハラミ定食と冷麺をいただきました。これが美味しかった。レンタカーを借り日本三景の一つである松島へ向かいました。観光連絡船に乗って松島湾を巡っていると「松島や、ああ松島や、松島や」という句が思い浮かびますがこれは、後に創作されたものらしく、実際に松尾芭蕉の詠んだ句は「島々や、千々に砕きて、夏の海」というものが正しいと言われています。



金色堂で記念写真

二日目は、奥州藤原氏3代が祀られている中尊寺を目指しました。当日7月17日は初代清衡の命日で法要が行われていました。昼食は、岩手名物「わんこそば」をいただきました。男性平均は60杯だそうですが、私は50杯が限界でした。お給仕さんがお椀に蕎麦を入れる際の掛け声「はい、どんどん」が楽しかったです。その後、十和田湖から美しい景色の奥入瀬溪流を下りました。

三日目は恐山と大間崎へ。霊場恐山は、観光客が少なく何か異様な感じが伝わってきました。気を取り直し鮎で有名な大間崎に向かいました。天然鮎と天然ウニは絶品でした。

四日目は、秋田犬の里と角館を目指しました。秋田犬の里では、ガラス越しに秋田犬が戯れているのを見るだけで、期待していた秋田犬に触れることはできませんでした。角館は、400年前に作られた城下町で武家屋敷通りは国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されており、シダレザクラとともに観光名所となっています。武家屋敷の敷地内にある「食事処桜の里」の比内地鶏の親子丼は絶品でした。

最終日、岩手の「とおの物語の館」には、「柳田國男展示館」、昔話の世界を体感できる「昔話蔵」、郷土芸能を楽しめる「遠野座」があります。時間があれば現地の語り部の話を聞きたかったです。

旅先では実際に自分の目で見て、人に聞いて触れることにより、それまで知らなかったことを発見することができるのではないのでしょうか。これは、自分にとって何にも変え難い喜びだと思えます。皆さんも機会がありましたら旅に出掛け、素敵なことを発見したらどうでしょう。

北ブロック 高倉祐一

10月のガイド活動 《明く楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター（浜松駅構内）」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《ふるさと講座》

29日 火 浜松市立富塚西小学校 65名

《同行ガイド》

8日 火 浜松市立城北小学校 74名
16日 水 浜松市立広沢小学校 41名

《浜松城》

6日 日 CKCネットワーク 18名
16日 水 浜松市立広沢小学校 50名
20日 日 上八田文化教育協会移動教室 45名
他6団体 62名

《浜松まつり会館》

18日 金 浜松市立和田東小学校 62名
26日 土 オータムフェスタ 673名
他3団体 87名

《犀ヶ崖資料館》

4日 金 浜松市立城北小学校 11名
浜松市立村楯小学校 10名
8日 火 浜松市立城北小学校 74名
11日 金 浜松市立積志小学校 90名
18日 金 浜松市立犬居小学校 8名

はままつ案内人会報 268号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会
〒430-0946 浜松市中央区元城町 100-2 (浜松城内)
TEL 053-456-1303
メールアドレス mail@hama-svg.jp
ホームページ http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索



家康公ゆかりの地